MITSUI HOME

三井ホーム株式会社
〒136-0082　東京都江東区新木場1-18-6 新木場センタービル
https://www.mitsuihome.co.jp/company/kankyo/

〈2026年8月発行〉

三井ホーム
MITSUI HOME

SUSTAINABILITY COMMUNICATION BOOK 2026

& EARTH *with* WOOD

木とともに。



& EARTH *with* WOOD

木とともに。

木とともに描く、豊かな未来

三井ホームは、1974年の創立以来「木」とともに歩んでまいりました。

木は持続可能な循環資源であるとともに、
成長時にはCO2を吸収する「人と地球にやさしい」資源です。

木を活かした建築をつくり、長く大切に使い続けることは、
社会の脱炭素化へとつながります。

私たちは、ツーバイフォー工法のリーディングカンパニーとして、
最新テクノロジーと高い品質で木造建築の可能性を拡げ、
お客様とともに、持続可能な循環型社会の実現に貢献してまいります。

Contents

- 街にひろがる多様な木造建築 …… P4-5
- 進化する「技術」で街の未来を拓く …… P8-10
- 「木」を使った建築で脱炭素社会を目指す …… P6-7
- 未来をつくる、多様な人材の活躍 …… P11



サステナビリティ トップメッセージ

木で建てれば、街は森になる。



三井ホーム株式会社
代表取締役社長
野島秀敏

「木」は、計画的に「植え、育て、伐採し、活用する」というサイクルを継続することで再生産を可能とするサステナブルな循環型資源です。
また、木には成長の過程でCO2を吸収し、体内に炭素を貯蔵する特徴があり、伐採され木材となった後も固定された炭素が維持されることから、脱炭素社会において木造建築が果たす役割はますます大きくなっています。

心地よく環境にもやさしい暮らし方が求められる今、私たちは住宅づくりで培った技術を進化させ、マンションや医療施設など、これまで木造が選ばれにくかった領域へも可能性を拡げています。
さらに、空港などの大規模な屋根構造を木造で実現するなど、他工法とも組み合わせながら、軽量で断熱性の高い木の利点を活かした最適な木造技術を幅広く提供しています。

都市に木造建築が増えることは、森林が姿を変えて都市に広がっているとも言うことができます。様々な用途の木造建築が、街に少しずつ増えていく未来は、きっと社会を豊かにし、人々の幸せにつながっていくはずです。

三井ホームはこれからも「木造建築で人々を幸せに」を合言葉に、次世代へ続く持続可能なすまいと暮らしをかたちにしてまいります。

6つの重点項目

「憧れを、かたちに。」のスローガンのもと、当社が大切にする、安心・感動・満足・豊かさに基づいて社会課題の解決に取り組むべく、6つの重点項目を定めています。



木造建築の発展

日本中に、そして世界に。
住宅の枠を越え、木造建築の発展に努めます。



豊かな暮らし

こころ豊かな暮らしのために、空間設計や
デザイン提案力を研鑽し続けています。



お客様満足

お客様の満足を第一に、住まいの維持管理を
はじめ、永く続くご縁を大切にしています。



脱CO2

木造による街づくりを通じて、人と地球環境に
やさしい脱炭素社会の実現に貢献します。



D&I（ダイバーシティ&インクルージョン）

多様な価値観・才能を大切に、従業員が
いきいきと活躍する組織づくりを進めています。



ガバナンス

法令を遵守するとともに、社会からの要請に応え、
誠実で信頼される企業を目指します。


<ウッドデザイン賞 受賞>「Rugby School Japan」食堂棟


注文住宅実例


よしだこどもクリニック


カフェ店舗


千葉ウシノヒロバ様新築牛舎
設計：株式会社 TAIMATSU + 溝部礼士建築設計事務所
施工：アイケイ商事株式会社


旧旨名主邸（耐震改修）

街にひろがる多 様な木造建築


T-home 景（KEI）



医療法人三世会　金澤病院


<ウッドデザイン賞 受賞>　パークアクシス北千束 MOCXION


<ウッドデザイン賞 受賞>　キャンパスヴィレッジ生田



二井ホーム 熊本支店


花畑あすか苑

2025年度ウッドデザイン賞受賞物件

木の価値をデザインの力で再構築し、優れた製品・建築・活動などが顕彰されるウッドデザイン賞※を4年連続で受賞しています。

※ 一般社団法人日本ウッドデザイン協会が主催する、木で暮らしと社会を豊かにするモノ・コトを表彰し、国内外に発信するための顕彰制度

JAPAN WOOD DESIGN AWARD 2025



木造建築で暮らす価値を最大化
リビオメゾン大岡山（東京都 目黒区）





都会の中で自然のやすらぎを体感できる木造賃貸マンション。天然木の共用部や、天然芝の「草屋根テラス」の実現は、理想的な都市居住の取り組みと評価されました。

担当者の声

事業者の日鉄興和不動産様は、環境配慮やCSRの観点で木造建築を採用されました。RC住宅と同等の価格・有効面積という条件もクリアし、木造かつ屋根には一面に芝生を設けた「草屋根」も導入。入居者がくつろげる空間となりました。



コンサルティング第二営業部 営業グループ(第二)グループ長　松本 昌平

オーナー企業のサステナビリティにも貢献
オートバックス四国中央店
（愛媛県 四国中央市）





※木構造部施工

カー用品店という新分野の木造建築。ツーバイフォー工法と木造トラスで柱のない大空間を実現。環境性能に優れた点も評価ポイントです。

担当者の声

店舗内の木造トラス部分をあらわしにすることができ、来店者からも好評とお聞きしています。木造店舗で省エネルギー性能に関する認証を取得するなど、オートバックス様の環境配慮の取り組みが評価されての受賞を大変嬉しく思います。



木材建材事業本部 木構造営業部 施設グループ　久保田 一志

木質空間の導入を手軽に
NLTコンテナの循環木造ユニット技術





一般流通材によるコンテナの木造化で、脱炭素と省コストを両立。短工期かつ再利用可能なため、木質空間の普及につながると評価されました。

担当者の声

「CLTでコンテナハウスができないか」との相談に、より合理的なNLTを提案し開発に至りました。同一サイズのパネルで壁・床を構成し、トレーラー輸送可能な大きさとすることで工場製作・現場設置を実現。再利用しやすいようボルト・ナット接合を採用しました。特許申請中の独自工法です。



木材建材事業本部 事業推進室 木構造研究グループ長　大橋 修

The future of architecture is wood

「木」を使った建築で脱炭素社会を目指す

三井ホームは、自然の恵みである森林資源を事業活動に活かし、人と地球にやさしい「木」を最大限に活用した建築をつくり続けています。消費エネルギーを抑えた暮らしの実現やリサイクルしやすい部資材の選定、建物の長寿命化などを通じて、持続可能な循環型社会の構築に貢献してまいります。





木は、成長期に光合成によって大気中の二酸化炭素（CO2）を吸収し、炭素（C）を体内に固定したうえで酸素を放出します。このことから、森林は「炭素の貯蔵庫」と呼ばれています。
伐採されて木材となった後も炭素の固定は続くため、木造建築は「都市の森林」や「第二の森林」とも言われています。
地球温暖化の原因であるCO2を抑制し、木材資源をはぐくむ森林を、持続可能な状態で維持するためには、木を適切に植え、育て、計画的に収穫して使うサイクルが欠かせません。
大切に育てられた木を余すことなく活用した木造建築を、メンテナンスしながら長く愛し、使い続けることで、炭素の固定化も永く続いていきます。



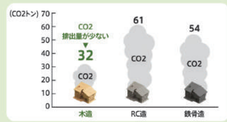
木は長期間炭素を固定

木造建築なら、構造材である木に長期間炭素を固定でき、脱炭素につながります。



建築時のCO2排出量削減

木造建築は、鉄筋コンクリート造（RC造）や鉄骨造の建築に比べて、資材の製造時や加工時に必要なエネルギーが少なく、建設時のCO2排出量の大幅な削減を可能にします。



出典：CASBEE評価に基づく林野庁試算 試算条件：床面積120㎡の場合

木材の調達は、持続性が保たれた森林から

三井ホームは、「木」を建物に活用する企業として、豊かな生態系や地域社会の維持に寄与する、持続可能な森林資源の調達に努めています。クリーンウッド法※に則り、木材および木材製品は合法性を確認したうえで使用します。また、保護価値の高い森林を守り、生物多様性の保全と生態系の劣化防止にも配慮しています。

国産材を積極的に活用

日本は世界でも有数の森林国です。三井ホームは、政府の国産材利用促進を受け、ウッド・チェンジ協議会に加盟するとともに、「『森の国・木の街』づくり宣言」に賛同しています。
また、北海道に約5,000 haの森林を所有する三井不動産グループの一員として、北海道庁などとの「建築物木材利用促進協定」をグループ各社とともに締結。サプライチェーン全体での国産材の積極的な活用などが認められ、「令和7年度 木材利用推進コンクール」の国産材利用推進部門において、最高賞となる「農林水産大臣賞」を受賞しました。



木材利用推進コンクール
農林水産大臣賞
受賞（令和7年度）

※ クリーンウッド法（合法伐採木などの流通及び利用の促進に関する法律）：
合法的に伐採された木材や木製品の流通および利用を促進する法律



国際的な森林認証を取得

2025年1月、国際的な森林認証である「SGEC/PEFC-CoC認証」を取得しました。これは、当社が提供する建物が、適切に管理された森林から供給された森林認証材を、適切な加工・流通の工程を経てつくられることを証明するものです。

SGEC/31-32-1609

「『森の国・木の街』づくり宣言」への参画

農林水産省は令和7年から、建築物の木造化や、木材利用の効果の見える化を通じて、森林資源の循環利用を進め、地球温暖化の防止や地域の活性化に取り組む「『森の国・木の街』づくり宣言」を提唱しており、三井ホームもこの宣言に参画しています。

「脱CO2」を「見える化」 MOCX（モクス） Green（グリーン） Project（プロジェクト）

MOCX Green Projectは三井ホーム独自の「木造SDGs戦略」です。木造建築による炭素固定量の「見える化」をはじめ、国産材の利用促進や、施設系建築物の木造化などを通じて、木造建築の可能性を拡げ脱炭素に貢献します。累計建築数25万棟を超える実績に加え、2023年度からは物件ごとの木材使用量に応じた炭素固定量を把握し、可視化することで、多くの人が脱炭素化を身近に考える社会の構築を目指しています。



MOCX Green Project公式サイト

最新の数値はこちらからチェックいただけます

https://www.mitsuihome.co.jp/company/mocx_green_project/

国内初！※1オンサイト＆バーチャルPPAによる工場での再エネ活用

CO2排出量 約44％削減

埼玉工場の屋根に薄型軽量太陽光パネルを設置して、「オンサイトPPA※2」に加え、その余剰電力を国内の他工場へ融通する「バーチャルPPA」を組み合わせた、先進的な仕組みを導入しました。これによって、年間約1,170MWhの再生エネルギーを活用し、国内全工場のCO2排出量の44％※3を削減する見込みです。



※1 薄型軽量太陽光パネルを活用し、オンサイトPPAとバーチャルPPAを組み合わせての導入は、国内初の取り組み
※2 オンサイトPPAとは、発電事業者が、需要家の敷地内に太陽光発電設備を発電事業者の費用により設置し、所有・維持管理をしたうえで、発電設備から発電された電気を需要家に供給する仕組み
※3 三井ホームが国内に所有する全工場である埼玉工場、千葉工場、関西工場、九州工場のCO2排出量の削減率

環境と共生した街づくりを目指す「エクステリアフィロソフィー」

家と庭と街がともに豊かになる「経年優化」の視点から、建物とエクステリアを一体で考える提案を行います。家族と自然、街がつながることでお客様の満足度を高め、街の景観にも貢献。心うるおう楽しい暮らしと、未来へ続く豊かなすまいづくりを目指します。

詳細はこちら ▶

木の空間に関する共同研究を実施

木を取り入れた空間が、人にどのような影響を及ぼすかについて、科学的に証明する実証研究を東京大学・三井不動産と共同で開始。研究によって新たな木材の価値を裏付け、よりよい未来の暮らしを推進します。



Timber technology is evolving

進化する「技術」で街の未来を拓く

三井ホームは、25万棟を超える木造建築の実績を通じて、多岐にわたる先進的な建築技術を蓄積してきました。これら当社独自の技術の総称として、木造技術ブランド「MOCX(モクス)※」を立ち上げ、街の様々な建物の木造化を推進しています。
当社は、さらなる技術力の研鑽のもと、あらゆる建物の木造化に挑戦することで、木造建築の発展とともに、脱炭素社会の実現に貢献します。



※MOC(木)でトランスフォーメーション(X)を起こすという意味の造語。
MOCには「Mitsui Home Original Construction method:三井ホームオリジナルの建築構法」の意味もある



日本初の木造マンション「MOCXION(モクシオン)」の開発

当社は、脱炭素社会の実現に寄与するべく中層以上の共同住宅の木造化を推進し、2021年に発表した「MOCXION」によって「木造マンション」という新たなジャンルを創出しました。従来、中高層木造建築の課題であった耐震性、耐火性、遮音性を最先端の技術で克服しながら、木造ならではの性能が活かされています。快適性とサステナビリティ、そしてツーバイフォーならではの普及性の高さが評価され、累計受注棟数は100棟に達しています。
「MOCXION」における炭素貯蔵量は、累計で11,291 t-CO2に上ります(2026年5月現在)。



MOCXION INAGI

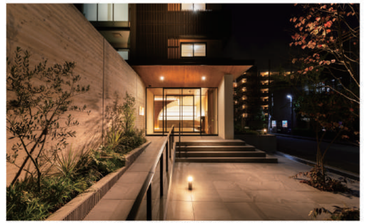
「MOCXION」とは

MOCXIONとは、三井ホームが展開する「サステナブル木造マンション®」のブランド名称。「MOC」、「Mansion」、「minus Ion(マイナスイオン)」による造語で、木造マンションが街の中の「一棟の豊かな森」となり、森林浴のようなやすらぎをもたらすように、という想いが込められています。

同規模のRC造・鉄骨造に比べ、建設時のCO2排出量を約40%以上削減。木ならではの優れた断熱性による快適性と、独自技術による耐震性や耐久性など、高い性能が支える安全・安心を両立した、人と地球にやさしい、新ジャンルのマンションです。

※劣化対策等級3、耐震等級3または耐火等級4・耐火構造など、当社の品質基準を満たす3階建て以上の木造共同住宅。(自社定義)





暮らしの中で「木」を感じるデザインが随所に散りばめられたナチュラルモダンな空間。
エントランスや外装の一部には、北海道産トドマツを使用しています。

担当者の声

当社の木造マンションは100棟を超える実績を重ね、ご入居者様から高く評価されています。法人のお客様からも、環境負荷の低減と資産価値の向上を両立する独自技術に大きな期待をいただいています。今後も木造の可能性を追求し、持続可能なすまいと豊かな社会の実現に向け、確かな価値をご提供してまいります。

賃貸住宅事業推進部 賃貸住宅事業推進グループ長　依田 明史



進化を続ける独自技術「MOCX WALL」

「MOCX WALL」は、木造マンション「MOCXION」向けに開発された壁倍率30倍相当の高強度耐力壁技術(特許取得技術)。その技術を戸建て住宅向けに最適化し、生まれたのが「MOCX WALL工法」です。耐震強度を確保しながら壁量を減らせるため、空間のゆとりとデザインの自由度が高く、大開口・大空間の実現を容易にします。さらに、階高の高い木造オフィス向けにも改良され、高層ビルにも採用されるなど、「MOCX WALL」は都市の木造化に向け、活用範囲の広がりを見せています。

戸建て　MITSUI HOME KOMAZAWA

モデルハウスで初めて「MOCX WALL工法」を採用し、耐震強度を維持しながら壁量を最小限に抑えることで、従来のツーバイフォー木造建築では困難だった高さ3mの大開口を実現。内と外をシームレスにつなぐことで、自然光がたっぷり入り、日常生活の中で心身をリフレッシュできる空間となりました。建築技術を居住者の健康維持に資する要素として捉え、持続的な幸福感(ウェルビーイング)をもたらす住環境のあり方を提示しています。







高層ビル　オフィスビル高層4フロア 日本橋本町一丁目 5番街区計画

三井不動産による900㎡超の木材を活用した、ハイブリッド木造賃貸オフィスビル。高層階の8~11階は、床・壁・柱・梁に木材を活用して純木造フロアとし、階高の高い木造オフィス向けに改良した「MOCX WALL」を国内で初めて適用します。都心で働きながら自然を身近に感じることができる空間を実現するとともに、積極的な木材の活用などによって、建築時のCO2排出量を約25%削減する想定です。(2028年完成予定)







※画像はイメージパースです

技術革新が導く、多様な木造建築の実現

「木」を活かした持続可能な社会の実現に向けて、三井ホームは従来の枠を超えた挑戦を続けています。独自の技術開発により、空港や学校、医療・福祉施設など、これまで木造が選ばれにくかった建築物の木造化を図ることで、そこで過ごす人々の豊かな暮らしにつながる新しい価値を創出しています。
一つひとつの建物を具現化する過程で工夫された技術が当社の中に蓄積され、さらなる新たな取り組みを可能とします。様々な建築への挑戦が、木造技術をさらに磨き、未来を拓いていきます。



空港 木造屋根構造で大空間を実現 阿蘇くまもと空港

2023年にリニューアルした旅客ターミナルビルの搭乗待合エリアは、木の香りが漂う開放的な空間。１万㎡の広大な天井面は、熊本県産のスギ（小国杉）を用いたツーバイフォーのトラス材と、構造用合板の天井パネルがリズミカルに組み合わされ、長いスパン（柱と柱の間）を支えています。小国杉の力強い木目を活かした木部あらわしの天井デザインは、熊本の空の玄関口として、温かみのある空間づくりを通じて、空港ならではの魅力を演出しています。



炭素貯蔵量 207 t-CO2

JAPAN WOOD DESIGN AWARD



熊本国際空港株式会社（事業者）、株式会社日建設計（設計監理）、株式会社梓設計（工事監理）、大成建設株式会社（施工）、木構造屋根組工事（三井ホーム）

学校 SE構法などの導入で叶える、先進的な木造校舎 桜の聖母学院　木造中学校校舎

「ぬくもりや親しみを感じる校舎に」という学校の要望に応え、既存の耐火RC造の建物に、火熱遮断壁を使用して準耐火木造校舎を増築。これは令和4年の建築基準法改正で可能となった手法で、先進的な事例です。三井ホームで初めてSE構法※1による「燃えしろ設計※2」を採用することで、耐震性・耐火性に優れ、木のぬくもりを感じる空間を実現しました。地元福島県産材も活用し、生徒の地球環境や地域文化の学習にも役立っています。





炭素貯蔵量 294 t-CO2

先進技術の導入によって火熱遮断壁を用いた木造準耐火建築物の増築を実現。





交流ホールやエントランスの下足入れには、福島県材が活用されています。

※1 株式会社エヌ・シー・エヌが開発した、柱と梁を剛接合にすることで強固な構造をつくりあげる構法
※2 火災時に木材の表面が燃えて炭化することを前提に、安全性を確保する木造建築の手法

Empowering human assets

未来をつくる、多様な人材の活躍

木造建築の未来を拓き、新たな価値を創出し続ける原動力は、多様な個性を持つ「人」の活躍にあります。
社員の多様性を活かし自律的なキャリア形成や活躍を支える人事制度や、多様な働き方を受容するオフィスづくり、グループ会社を含めた社員同士の円滑なコミュニケーションを図る取り組みなど、共創が生まれる環境づくりを通じて、イノベーションを生む企業文化の醸成を目指しています。





三井ホームの新オフィス「MOCXCOM」※木の空間で働き方も豊かに

令和6年、創立50周年を機に本社を木の街・新木場へ移転し、分散していた部門やグループ会社の拠点を集約しました。新オフィスは三井不動産保有林の間伐材など、「木」をふんだんに使ったデザイン。機能的でありながらも、「木」ならではの安らぎを感じさせ、組織の連携や活性化を促します。また、業務に最適な場所や時間を選んで働く「ABW（Activity Based Working）」の導入により、オープンイノベーションが生まれる企業文化の創出を目指しています。

※新オフィスのコンセプト、木（MOC）でトランスフォーメーション（X）を起こす意味の「MOCX」に、今後の事業に変革を起こす羅針盤（COMPASS）となるという願いを込めた







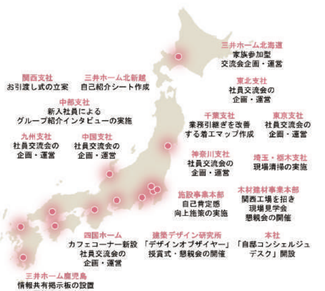


日経ニューオフィス賞 受賞

2026 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health

「つながり推進プロジェクト」で社内コミュニケーションを活性化

誇りとやりがいを持って働ける職場を目指し、社内の連携強化を図るコミュニケーション向上策。互いの業務を理解して協力し合い、職場環境を改善し、社員・顧客の満足度や業務の質の向上につなげることが目的です。事業本部や支社ごとに活動し、内容を全国で共有します。



担当者の声

新しい働き方である「ABW」のほか、コミュニケーション活性化策としてオフィスカジュアルや社員同士の「さん」付け呼称を実施。部門や年齢を超えた交流が活発に図られ、新たなアイデアや発想が生まれています。
今後も「人」を大切にする企業文化を残しながら、様々な価値観を柔軟に受け入れ、変革を起こす企業でありたいと思います。

人事部長　保坂 裕重



